

いのちの授業【技術科】学習指導案

指導者 T

1. 本時の指導

(1) 題材 身の回りにあるユニバーサルデザイン(UD)を知ろう

(2) 目標 ユニバーサルデザイン(UD)の商品が多くの人々の役に立つものであることを知り、様々な立場の人々の身になって考えた商品のデザインであることを理解する。(技術科)
ユニバーサルデザイン(UD)の存在を知ることを通して、人を想像することは、自分の生も大切にすることにつながることを実感する。(いのちの授業)

(3) 指導過程

	学習活動	主な発問(○)と指示()	指導上の留意点(・)と評価()
導入	何気ない製品を通して、これらの製品には、作り手の思惑があることを知る。	○画鋸とプニョプニョピン(コクヨの開発した画鋸)との違いを考えてみてください。 班員全員が体験して考えるように指示する。 ○できたものを発表してください。 ○作成者の意図がこのようなあるわけなのです。今日は、この作り手の意図について想像していく授業をしていきます。	・生活班ごとに、画鋸とプニョプニョピンを配布し、プリントに違いをたくさん書かせていく。 ・すべての班に答えさせることにはこだわらない。
展開	強力マグネットとプニョプニョマグネットを使い比べる	○次も同様に、マグネットの使い比べです。今度は、作り手がどんな人を想像して開発したものかを考えて見ましょう。 ○使ってみてどうでしたか、どのような人を想像して開発したものでしょうか。班毎に話し合ってみましょう。 予想される反応 ・老人・幼児・手の不自由な人・とりづらいところで使用しなくてはいけない人 ○本当にそれらの人にとって便利なものなのだろうか？この製品の開発の仕方について実際にやってみましょう。 ここに軍手があります。今度はこれを片手にはめて同じことをしてみましょう。	・素手でまずは違いを考えさせる。 ・班毎に強力マグネットとプニョプニョマグネット、ホワイトボードを渡す。 ・安易に考えるのではなく、できる限り具体的に想像させる ・始めから軍手を体験させるのではなく、生徒の出てきた考えの中から結んでいく。軍手を2重にしたものを渡し、再度使い比べをさせる。
まとめ	学習したことをもとに、今起きているUDの重要性について理解する	○今日学習したことが、今世界中で始まっている“もの作り”の流れです。一言で言って、どんな流れだと思いますか。 予想される反応 ・使う人の身になる・体の不自由な人も使えるように・大人も子どもも無い	- 本時の学習の理解の度合いを把握する質問 ・UDという言葉をここで教える。 ・時間が合ったら、UDの7原則を説明する
いのちの授業のまとめ	人を想像することは、自分が生きていることにつながるという話を聞く	この考えは何もものづくりだけに必要なことではありません。人を想像するということは、自分を大切にすることにつながるのです。	・何か実際にあった話を事例に、まとめとして取り上げる。 ・余韻を持って、授業を終了する。

(4) 評価 UDの商品が多くの人々の役に立つものであることを知り、様々な立場の人々

の身になって考えた商品のデザインであることを理解できたか。

UDの存在を知ることを通して、人を想像することは、自分の生の実感にもつながることを感じとれたか。